保健体育（体育）

1　研究のテーマ

(1) 研究テーマ

豊かなスポーツライフの継続に向けたネット型バドミントンの授業
～ＩＣＴの活用とスポーツへの多様な関わり方を学ぶ学習過程の工夫を通して～

(2) 研究のねらい

『高等学校学習指導要領(平成30年告示)』において、科目体育の目標は「生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力」(文部科学省　2018)を育成することが求められている。また、同解説保健体育編において、「生涯スポーツの設計に関する思考力、判断力、表現力等」も育成することが求められており、各領域の「思考力、判断力、表現力等」の例示に「(各内容のまとまり名)の学習成果を踏まえて、自己に適した『する、みる、支える、知る』などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けること。」が加わった。

そこで本研究は、バドミントンの単元において、生涯スポーツとして「する、みる、支える、知る」といった多様な関わり方を生徒が学べるよう学習過程を工夫した。さらには、ＩＣＴを活用することによって主体的・対話的で深い学びを活発化させ、育成を目指す三つの資質・能力をバランスよく育むことを目的とする。

2　実践事例

(1) 単元指導計画

ア　科目名：体育【対象：入学年次の次の年次】

イ　単元名：バドミントン【内容のまとまり：Ｅ　球技】

ウ　単元の目標：

＜知識及び技能＞

バドミントンについて、勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、(体力の高め方)、(課題解決の方法)、(競技会の仕方)(など)を理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。

ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができるようにする。

＜思考力、判断力、表現力等＞

生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができるようにする。

＜学びに向かう力、人間性等＞

球技に主体的に取り組むとともに、(フェアなプレイを大切にしようとすること)、(合意形成に貢献しようとすること)、(一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとすること)、互いに助け合い高め合おうとすること(など)や、(健康・安全を確保すること)ができるようにする。

エ　単元の評価規準

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
●知識 ①バドミントンには技術や戦術、作戦の名称があり、それぞれの技術、戦術、作戦には、攻防の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の方法があることについて、言ったり書き出したりしている。	●技能 ①シャトルを相手側のコートの守備のいない空間に緩急や高低などの変化をつけて打ち返すことができる。 ②仲間と連動してネット付近でシャトルの侵入を防いだり、打ち返したりすることができる。 ③シャトルをコントロールして、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むことができる。 ④相手の攻撃の変化に応じて、仲間とタイミングを合わせて守備位置を移動することができる。	①バドミントンについて、チームや自己の動きを分析して、良い点や修正点を指摘している。 ②課題解決の過程を踏まえて、チームや自己の新たな課題を発見している。 ③バドミントンの学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を見付けている。	①球技の学習に主体的に取り組もうとしている。 ②仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。

オ　単元の指導と評価の計画

<table>
<tr><th></th><th>時</th><th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th><th>6</th></tr>
<tr><td rowspan="6">学習の流れ</td><td>0</td><td rowspan="5">オリエンテーション
知：技術、戦術等の名称
態：愛好的態度</td><td colspan="6">本時のねらいと流れの確認、健康観察、準備運動、用具等の安全確認　等</td></tr>
<tr><td>10</td><td colspan="3" rowspan="2">基本となるフライトの復習
サーブ、クリア、ドロップ
スマッシュ、レシーブ</td><td colspan="3">ダブルスでの
仲間と連携した動きを学ぶ
技：連携した動き</td></tr>
<tr><td>20</td><td colspan="3" rowspan="2">タスクゲーム
バドミントンコート半面での
課題解決ゲーム
態：協力
技：空間に打ち返す　技：ネット付近の攻防　技：シャトルを打ち込む
思：体の動かし方や行い方</td><td colspan="3" rowspan="2">メインゲームⅠ
仲間と連携した動きを
身に付けるための
ダブルスのゲーム</td></tr>
<tr><td>30</td></tr>
<tr><td>40</td><td colspan="3">課題解決練習
ＩＣＴを活用して
チームで本時のゲームでの
課題を解決し、次時につなげる
思：課題解決</td></tr>
<tr><td>50</td><td colspan="6">本時の振り返り、整理運動、健康観察、次時の学習内容の確認　等</td></tr>
<tr><td rowspan="4">評価の機会</td><td>知</td><td>①</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>技</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>思</td><td></td><td>①</td><td></td><td></td><td>②</td><td></td></tr>
<tr><td>態</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>①</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th></th><th>時</th><th>7</th><th>8</th><th>9</th><th>10</th><th>11</th><th>12</th></tr>
<tr><td rowspan="6">学習の流れ</td><td>0</td><td colspan="6">本時のねらいと流れの確認、健康観察、準備運動、用具等の安全確認　等</td></tr>
<tr><td>10</td><td colspan="3">チームで基本となるフライトの練習　等</td><td colspan="3">仲間と基本となるフライトの
技能チェック
チェック表も活用し仲間と相互チェックをする</td></tr>
<tr><td>20</td><td colspan="3" rowspan="2">ゲームⅡ
仲間と協力して高め合う
ダブルスのゲーム
（リーグ戦方式）
思：生涯スポーツの設計</td><td colspan="3" rowspan="2">ゲームⅢ
体力差や技能差を考慮して
生涯スポーツにつなげる
ためのダブルスのゲーム
（トーナメント戦方式）</td></tr>
<tr><td>30</td></tr>
<tr><td>40</td><td colspan="6">課題解決練習
ＩＣＴを活用してチームで本時のゲームでの課題を解決し、次時につなげる</td></tr>
<tr><td>50</td><td colspan="6">本時の振り返り、整理運動、健康観察、次時の学習内容の確認　等</td></tr>
<tr><td rowspan="4">評価の機会</td><td>知</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td rowspan="4">総括的な評価</td></tr>
<tr><td>技</td><td></td><td>②</td><td>④</td><td>①</td><td>③</td></tr>
<tr><td>思</td><td>③</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>態</td><td>②</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

評価方法	
知識	学習カード
技能	観察、スキルチェック
思考・判断・表現	学習カード
主体的に学習に取り組む態度	学習カード、観察

カ　授業実践例　（９時間目／12時間）

(ｱ) 本時の目標

＜知識及び技能＞

相手の攻撃の変化に応じて、仲間とタイミングを合わせて守備位置を移動することができるようにする。

＜思考力、判断力、表現力等＞

バドミントンの学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を見付けることができるようにする。

＜学びに向かう力、人間性等＞

仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合うことができるようにする。

(ｲ) 本時の評価

知識・技能(技能)④：相手の攻撃の変化に応じて、仲間とタイミングを合わせて守備位置を移動することができる。

(ｳ) 本時の展開

学習活動(指導上の留意点を含む)	評価の観点 (評価方法)
1　挨拶、出席確認、健康観察、用具の安全確認 ○自身や仲間の健康状態を把握する。 2　本時の説明 ○本時の学習のねらいや授業の流れを理解する。	
本時のねらい 相手の攻撃の変化に応じて仲間と連携して守備位置を移動し、 自己に適した多様な関わり方を見付け、互いに助け合い高め合いながらゲームをしよう。	
3　準備運動 ○バドミントンで使用する箇所を重点的に行うように指示をする。	
4　ダブルスのチーム練習 ○３人１組でダブルスの陣形の確認や戦術の確認をする。 ○基本となるフライトの練習をする。 5　ダブルスのリーグ戦(３ゲームマッチ、11点先取) ○３人組の中で２人はダブルスの試合をする。 ○11点先取のゲームとする。どちらかが６点先取した時点でタイムアウトとする。 ○ダブルスの片方はビブスを着てサービスの順番を確認する。 ○１人は動画を撮影する。動画担当は相手コートの後ろで撮影する。 ○「する、みる、支える、知る」といった多様な関わりでゲームを楽しみながら行うように説明をする。	知識・技能(技能)④： 相手の攻撃を想定し、守備位置を状況に合わせて変化させたり、移動したりすることができる。(観察)
発問 生涯スポーツとして継続していくために自己のライフスタイルの中にバドミントンを取り入れていくには、どのような関わり方をしたらよいだろうか。	
「する」・・・・・バドミントンをプレイすること 「みる、知る」・・仲間を応援すること、仲間の課題を見付けること、相手ペアの特徴に気付き空いている空間を見付けること　など 「支える、知る」・・・・審判をする等試合の運営に関わること、動画撮影担当として戦術の提案をすることなど 6　課題解決練習 ○動画を確認し、試合での課題や改善点を各チームで挙げ、解決に向けた練習を選択し、チームで考えて練習をする。	
7　整理運動、健康観察 ○怪我をした者や体調不良者がいないか確認する。 8　本時の振り返り、次時の学習内容の確認 ○各チームで本時のゲームの振り返りを行う。 ○学習カードへの記入をする。 ○次時の授業の見通しと、次時への課題を共有する。	

研究実施校：神奈川県立平塚中等教育学校(全日制)
実　施　日：令和５年10月11日(水)
授業担当者：教諭　夏井　裕丞

(2) 「指導と評価の一体化」の視点を踏まえた主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導と評価のポイント

ア　指導と評価のポイント

本研究では、評価については、「十分満足できる」状況（A）と判断される生徒、「おおむね満足できる」状況（B）と判断される生徒、「努力を要する」状況（C）と判断される生徒の実現状況を判断する目安を検討・作成し、それを踏まえて各観点の評価を行った。

実現状況を判断する目安の例：９時間目

知識・技能（技能）④：相手の攻撃の変化に応じて、仲間とタイミングを合わせて守備位置を移動することができる。

十分満足（A）	相手の攻撃の変化を瞬時に想定し、仲間とタイミングを合わせて守備位置を状況に合わせて変化させ、素早く移動することができる。
おおむね満足（B）	相手の攻撃の変化に応じて、仲間とタイミングを合わせて守備位置を移動することができる。
努力を要する（C）	相手の攻撃の変化に応じて、仲間とタイミングを合わせて守備位置を移動することができない。

イ　主体的・対話的で深い学びのポイント

(ｱ) 主体的な学びについて

単元のはじめに、本単元で使用する学習カード（図１）を用いて学習の流れを確認し、単元が終わるときのゴールイメージを生徒にもたせ、主体的に学習に取り組めるよう工夫を図った。また、毎時間の授業においては、本時のねらいをホワイトボード等（図２）で見える化することで、学習内容がぶれずに活動に取り組めるようにした。授業後に生徒へインタビューした際には、「ホワイトボードに今日のねらいと流れが書いてあったので、意識して練習やゲームができた」と答えた生徒もおり、生徒は本時のねらいを意識しながら授業に臨むことができたと考える。

授業のまとめの時間では、学習カードに本時の学びの振り返りを記入することで、本時のねらいや単元のゴールまで自身の学びが進んでいるか、「生涯スポーツとして継続していくために自己のライフスタイルの中にバドミントンを取り入れていくには、どのような関わり方をしたらよいだろうか。」という単元を貫く問いへの自身の答えの変容等を確認した。

図１　学習カード

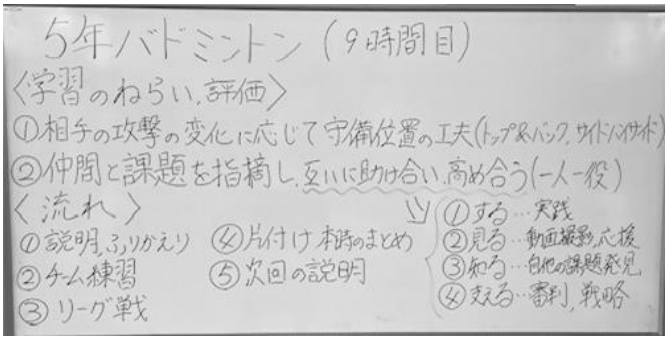

図２　本時のねらい等を示した板書

(ｲ) 対話的な学びについて

対話的な学びの一助とするために、ＩＣＴ機器でダブルスの試合を撮影(図３)し、ゲーム後には、撮影したものをチームで視聴することで、個人やチームの課題を発見し、解決に向けた練習方法等について考える時間を設けた。

実際の公開研究授業では、テニスの授業において学んだネット型の攻め方の知識をバドミントンに置き換え、撮影した動画から空いた場所をめぐる攻防につなげていく対話が生徒同士の中で広がっていった。その対話から、チームは、個人の技能的課題に気付き、課題解決のための練習を考え取り組んでいた。

図３　ダブルスのゲーム

(ｳ) 深い学びについて

「(ｲ) 対話的な学びについて」でも記述した通り、各領域で学習した具体的な知識(テニスで攻め方)を、バドミントンに置換し、「ネット型の攻め方は…」というように汎用的な知識とすることができた。

このことは、体育における知識及び技能の知識において目指すべき姿であり、主体的・対話的で深い学びを通して資質・能力を育むことができたと言える。また、単元では「する」だけではなく「みる、支える、知る」というスポーツへの多様な関わり方を常に問い続けた結果、国際大会をはじめとするスポーツへの関心が高まっていく姿が、学習カードや生徒同士の対話から感じられた。

これらのことから、授業での学びを、授業内で留めることなく、実社会と結びつけることができたと考えられる。

３　まとめ

本研究では、ＩＣＴの活用とスポーツへの多様な関わり方を学ぶ学習過程の工夫をすることで、卒業後もスポーツに親しむ力を育むことを目指した。

そこで、単元を通して「生涯スポーツとして継続していくために自己のライフスタイルの中にバドミントを取り入れていくには、どのような関わり方をしたらよいだろうか。」という発問をし、生徒の視点の広がりを見取った。その結果、表１のような記述がされた。

表１　生徒が記述した学習カードの内容(生徒の学習カードより一部抜粋。誤字、脱字を除き、原文そのまま記載)

生徒Ａ	単元前 する…苦手なサービスを克服したい。 みる…自分のチーム、ペアの人の技術を上げるために適切な助言を与えられるメンバーになりたい。 支える…バドミントンのルールをしっかり理解して審判を円滑に進められるようになりたい。 知る…どうしたら相手が取りづらいシャトルを打てるかなど、戦術について考えたり知ったりする。
	単元後 する…今回の授業で学んだ技術を生かして次回の授業ではもっと強くなりたい。また、初めてダブルスを行ったので、今後もダブルスを積極的に戦っていきたい。 みる…審判も今回は行い、今までとは違って本格的なルールを学べたので、バドミントンの試合の観戦はもちろん、自分が審判としてまた試合に関わりたいと思う。 支える…今回の相手の動きや仲間のフォーメーションを分析してアドバイスし合ってみて、相手の分析をすることも大事なのだと学べた。今後も競技に関わらず、相手や仲間の動きの分析をしていきたい。 知る…今まであまり知らなかった技術を知り、ダブルスのフォーメーションを考えたり、戦術を練ったりすることで知識も増えた。バドミントンでスポーツの見方を知れたので、他のスポーツにおいても知るということを大切にしながら、スポーツと関わっていきたい。
生徒Ｂ	単元前 ・バドミントンの基本的なルールをしっかりと学び、公式の試合を観戦できるようになりたい。(選手を応援できるようになりたい。) ・ただ打ち合うだけではなくて、しっかりとかけ引きのある試合ができるように、様々な打ち方を学び、楽しくバドミントンができるようになりたい。
	単元後 ・今回の授業では、上手にラリーを「する」ことができなかったが、ルールや技術の種類を「知る」ことはできたため、観戦するときに思い出して「みる」ことができたら良いと思った。今まではバドミントンの試合をみたことがなかったが、今回ルールを学べたので見るのが楽しみです。 ・国際大会の時に日本代表の選手を応援して「支える」ことができたらいいなと思います。 ・今回の授業は楽しかったので、友達と時間のある時にバドミントンをやりたいと思いました。

表１より、生徒は単元を通して「する、みる、支える、知る」といったスポーツへの多様な関わり方を具体的に理解し、高等学校を卒業後も関わっていくためにはどのようにすればよいかということまで考えを広げることができたと考える。加えて、表１の生徒だけでなく、受講した生徒の学習カードの記述から、バドミントンだけでなくスポーツへの多様な関わり方についての記述が増え、豊かなスポーツライフの継続に向けた力を、スポーツへの多様な関わり方から育成することができたと考える。

今後の課題としては、ＩＣＴ活用した時間では運動量の確保が十分にできなかったこと、他の単元においても「する、みる、支える、知る」といったスポーツへの多様な関わり方を、生徒が見付けられるようにするための手立て等の検討が必要であることが挙げられる。

最後に、豊かなスポーツライフを継続するためには、高等学校卒業後も主体的にスポーツと関わり、個人がスポーツ文化の主体となっていることに気付くことが重要であり、保健体育科の担う役割というのは非常に重要なものであると感じた。

引用文献

文部科学省 2018 『高等学校学習指導要領(平成30年告示) 解説保健体育編体育編』　p.12」
https://www.mext.go.jp/content/1407073_07_1_2.pdf (令和６年１月18年取得)